

国労

蘇我運輸区分会ニュース

蘇我駅

千葉方面行きを待つ 汗ダラダラの地獄のような時間！

嘘でしょ？という声

地本連協でも取り上げられていましたが、蘇我駅では千葉方面行き電車が、かなり空いてしまう時間帯があります。

特に外房線から来る特急1062Mでの蘇我駅の乗り換えは19分も待たされることで、多くの利用者から苦情が挙がっていたようです。



何とかならんか！

その特急到着が蘇我駅2番線に13時1分、乗り換え千葉方面行き（木更津発各停）が1番線13時15分着、20分発で、19分も待たされます。ちなみにその前は12時58分なので、22分間隔が空くこととなります。春秋の穏やかな気候ならまだしも、今年の夏の強烈な暑さの中、モロに日が射すホームでの待ち時間は地獄のようだったに違いありません。

例えば鴨川から特急の指定席に涼しい快適な乗車してきたあと、蘇我のホームで汗ダラダラになることなど予想もしなかったことでしょう。ベンチも少ないし、冷房の効いた待合室もないし、苦情を言おうにも窓口は閉まっているし……。実際、この特急から乗り換える旅客から「嘘だろお？」「ふざけやがって！」といった声も聞いています。

利用者第一の

ダイヤを作れ！

せめてその前の12時58分発に間に合うようにするとか、対策はありそうな気がします。

利用者にはこれほどの不便というか苦痛を与

これで良かったのか？ 特急車内、急病人対応

8月23日、特急1069M列車（東京20時発）において発生した急病人対応に関する話です。改札担当車掌は、葛西臨海付近で「デッキに人がうすくまっている」という他の旅客の申告で現場に向かいました。当該旅客（急病人）からは「貧血を起こして動けない、もう少し様子を見たい」とのことでした。勿論、車掌は途中駅に臨時停車し、降りることも出来る旨を伝えていました。

5分経過の後、再度行ってみるとやはりだめということで、指令に途中駅での臨停、駅員と救急車の手配を依頼しました。その場所が市川塩浜通過付近だったため、車掌は時間的に考え、また駅員の多い南船橋、新習志野、海浜幕張辺りを考えていました。が、返ってきたのは「二俣新町（次駅）で臨停、対応を行なう」というものでした。

確かに対応が早いのは良いことなのかもしれませんが、委託駅であるこの駅はこの時間、たった一人での対応となり、四苦八苦することとなりました。状況によって判断の難しい色々な場面があるかもしれませんが、少しでも人の多い駅の方が確実な対応も出来、安心につながるのではないかと思います。どうか。



えてしまうなど、もつてのほかだと思えます。そもそも蘇我駅発の千葉方面行きが20分も空いてしまうのは問題ではないでしょうか。会社の都合ではなく、利用者の都合、ニーズに合わせた時刻作りを次のダイヤ改に期待します。

年次有給休暇について①

「JRではほとんどの職場で「年休」と呼ばれているようです。

労働基準法第39号には、年休に関する規定が定められており、その目的は①労働者の心身の疲労回復 ②労働力の維持培養 ③ゆとりある生活の実現 であり、休んでも有給（給料が出る）であり「労働者に年休を与えない会社は違法です」と謳われています。（特例として時季変更権も定められています。）

更に「企業は有給休暇の取得理由を問わない」と定められており、この会社は昔からおかしな方向で進んできましたが、本来、労働者が年休を申請する場合、特段、取得理由を伝える必要はありません。

JR会社の年休に関する通達は、完全にブラック企業に向かいつつあることが分かるものではないでしょうか？！

（続く）